

Citation: Worthington HV, Clarkson JE, Eden OB. Interventions for treating oral candidiasis for patients with cancer receiving treatment. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 2. Art. No.: CD001972. DOI: 10.1002/14651858.CD001972.pub3.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 5 February 2007

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 癌治療はより効果的になってきているが、短期・長期の副作用とも関連している。口腔カンジダ症を含む口腔への副作用はそれらを治療するさまざまな薬剤の使用にもかかわらず、疾病の主な原因となっている。

目的: 化学療法や放射線療法、またはその両方を受けている癌患者の口腔カンジダ症治療の介入の効果を評価すること。

検索戦略: Cochrane Oral Health GroupとPaPaS Trials Registers, CENTRAL, MEDLINE, EMBASE, CINAHL, CANCERLIT, SIGLE, LILACSのコンピュータ検索が行われた。

関連論文の参考文献のリストが検索され、適格な試験の著者にコンタクトをとり、試験を同定してさらなる情報を得た。

最近の検索は2006年6月である。CENTRAL (The Cochrane Library 2006, Issue 2)。

選択基準: 化学療法や放射線療法を受けている癌患者の口腔カンジダ症の治療に処方されている薬剤を比較するすべてのランダム化比較試験。

アウトカムは口腔カンジダ症の根絶、嚥下障害、全身感染症、鎮痛に必要な投与量、入院期間、コスト、患者のQOLであった。

データ収集と分析: データは2人のレビューアによって独立に二重に抽出された。

ランダム化や脱落の詳細確認のために著者にコンタクトをとり、質の評価が行われた。リスク比はランダムエフェクトモデルを用いて計算された。

主な結果: 9つの試験の658人の患者が対象患者基準を満たしたので本レビューに含めた。それぞれ別の試験において2つの薬剤が口腔カンジダ症の根絶に効果的であることがわかった。菌学的に評価すると、消化管から吸収される薬剤であるケトコナゾールは、口腔カンジダ症の根絶についてプラセボよりも効果があり(リスク比(RR)=3.61、95%信頼区間(CI) 1.47から8.88)、クロトリマゾールでは50mg高用量のほうが、10mg低用量より口腔カンジダ症の根絶に効果的であった(RR=2.00,95%CI 1.11から3.60)。うち5つの試験がこれらのメタアナリシスに含まれ、3つは高リスクのバイアス、2つは中リスクのバイアスであった。他の試験は部分的吸収薬物である10mg用量のクロトリマゾールとプラセボ間には統計学的な有意差がみられなかった。さまざまな吸収薬物の比較と吸収薬物と非吸収薬物との比較では差がみられなかった。

レビューアの結論: 吸収薬物であるケトコナゾールは口腔カンジダ症を根絶させ、部分吸収薬物であるクロトリマゾールの高用量は、10mg低用量よりも効果的かもしれないという、弱く不確実なエビデンスがある。しかし、研究者は口腔カンジダ症を治療するよりも予防したがるだろう。

口腔カンジダ症の新旧の治療の介入の効果については、さらによくデザインされたプラセボ対照試験が必要である。

(翻訳 大山 篤・監訳 湯浅秀道; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、オンラインライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版（英語版）の内容をご確認ください。